

新潟県 「水土里ネット川西」～子どもの未来プロデューサー～

役員：14人 職員：5人 組合員：1,153人 受益面積：1,001.7ha

1. 地域の概要

十日町市北西部に位置し、南北に縦貫する中部丘陵地を境に東部地区、西部地区と大別できる。東部地区は、一級河川信濃川沿いに発達した河岸段丘上に耕地がある。そのため山側は昔から水不足であったため、5つの一級河川の最上位にダムを築堤し使用している地区と逆に水不足とは無縁の信濃川から取水している地区に区分される。特に昔から水不足であった地域では、夜水引きという夜中に他人の田の水をとめ自分の田にかける操作が、水の一滴は血の一滴という流血騒ぎを起こすような深刻な問題となり、その対策として必要水量を確保するために、各沢沿いにダムを建設することになった。

西部地区は東部地区の反対側にあり、渋海川に向かって急傾斜しているため、水源は小ため池と渓流水となり、渇水になりやすい地区でもある。気象は日本海特有の多雨多湿地域で、冬季は日本海の湿気を含んだ北西の季節風が三国山脈にぶつかって雪となり、本地方に豪雪をもたらす。毎年2～3m、多い年は4mを超えるが、その12～2月の降水量が年の4割にもなる。その雪のため雪消えが遅く、春は短く、夏は湿度が高く蒸し暑い地区である。その春が遅く残雪が残る中で、青緑したブナ林が農家の農作業意欲をかきたてたり、秋に風味豊かなそばを食するため力を注ぎ、稲刈後のわらを利用し宝船をつくるなどの伝統もある。

2. 取り組みの背景、きっかけ

も組合員の高齢化が進む中、平成13年度から県営魚沼川西地区土地改良総合整備事業を導入し、担い手への集積を進めるべく活動を行って来た。幸いにも6団体の農業生産法人が立ち上がり、今後の農業生産基盤を守っていく基礎はできてきたが、その農業法人や市が認定している個人経営者にどのような形で人材を育成していくべきか、理事会、協議会等と話合中で、小学生の頃から自然豊かに恵まれているこの地区で、農業が守り続けられてきたことを理解してもらおう事が、今後役に立ってくると考えて、小学校の総合学習や「緑の少年団活動」を通して農業や土地改良区のことを啓発していく事となった。

3. 運動の基本理念等 『未来のために』

小学生が将来就農し、自信をもって、この地区で農業経営を行っていけるように、また子々孫々に引き継いでいける環境を作っていくために、この地区独特の自然や水利状況を理解してもらえ活動をしていく。

その活動は、小学生が興味をもってもらえるような工夫をすることはもちろん、自分たちも楽しんで活動をしていかなければ長続きしないので、笑顔の絶えない運動にしていきたい。

4. 主な運動の概要(開始年)

①内部運動

- 記念誌発行事業(H4,H14)
- 財務情報報告書(区報)発行(H7)

②外部運動

- 「雪に打ち克つ農村環境をつくろう」(消雪溝整備と機能の発揮)(H19)
- 「農業用水を生み出す水源涵養林を大切にしよう」(水源涵養林の啓発)(H20)
- 農業農村整備のPR(H22)

5. 運動全体の成果と今後の展望

小学生には、具体のイメージが持てるように、各種の資料材料を制作してきた。特に、実際に水が流れ、地表や森林などの地下を通り、農業用水や上・下水道などに利用され、海に戻り蒸発する水の循環システムがわかるジオラマや、地区の形状を見た中で農業用水がどのように流れているのかなどジオラマをみて、自分たちの地区の特長や農業用水の大切さや森林の涵養水源としての役割を理解してもらった。この仕組みの中で、田んぼと農業水利施設について、その意味を一体的に説明することで、水土里ネットの活動と存在を認識してもらっていることは、将来に向け着実な成果となっている。

非農家には、農業用施設が農業以外に冬季の流雪溝用水や防火用水として利用されていることへの認識が深まってきている。特に、流雪溝用水については、豪雪時には毎日使用したいという要望が非農家から出るなど、農業用施設は季節を問わず地域にとって欠くことのできない大切な存在であるということが活動を通じて理解されている。

私たちが掲げたスローガン「未来のために」のとおり、小学生を対象に農業用水の流れや農業施設の大切さを知ってもらい、少しでも農業に興味を持って次世代の後継者になってもらう取組みのため、今現在大きな成果は出ていないが、アンケートの結果や小学生の行動を見ていると、興味をもっていただけるという感覚はある。今後の展望は、この活動を何年も続けていくことが、最終的に未来の農業者つまり、担い手になっていただけると考えているので、創意工夫をしながら続けていきたい。

